

平成 31 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■自主研究 21	公益目的事業 19
主査名	青木 亮 東京経済大学経営学部教授	
研究テーマ	地方における路線維持、活性化を目指した乗合バスの新たな取り組み策と課題	
研究の目的： 地域における公共交通手段の維持は厳しさを増しており、自家用車を用いた相乗り・送迎のような住民参画による手法など、様々な施策が各地で試みられている。交通手段の確保は、少子高齢化と人口減少が進展する中で、地域社会の維持、発展を目指す上で重要な課題となっている。本年度は事業者や行政の視点から最近の動きを概観し、成果や課題、将来展望を探ることを目的とする。研究メンバーは、各地で交通アドバイザーなどとして活躍し、豊富な調査実績を持つ交通経済学、交通地理学、工学分野の研究者からなる。年3回程度を予定する研究会で報告と討議を行うと共に、現地調査を実施して、研究を深化させていく。		
研究の経過（4月～3月）： 5月12日（日）に本年度の研究をメインで進めるメンバーと主査で、研究方針や内容について打ち合わせを行い、それをふまえて6月20日（木）に第1回研究会を開催した。研究会では、本年度の研究内容について議論すると共に、高齢者と公共交通の関係や住民参画による公共交通維持策などについて報告をもとに議論した。そのほか群馬県における貨客混載サービスの現状や山梨県早川町の「はやかわ乗合バス」などについて研究会メンバーより報告を受けた。第1回の研究会の議論をもとに、まず高齢者の免許返納と公共交通の関係を中心に関西地区で調査を進めていくこととなり、近畿運輸局と関西交通経済研究センターと共同で自治体へのアンケート調査を実施した。中間報告として10月30日（水）の第2回研究会で集計結果の概略を報告して、年明け後の2月28日に実施した第3回研究会で最終的な集計結果と分析について討議した。また兵庫県養父市のマイカー運送ネットワーク「やぶくる」や京都府京丹後市の「ささえ合い交通」についての最近の動き（昨年調査のフォローアップ）や、群馬県における路線バスの変遷についても議論を行った。		
研究の成果（自己評価含む）： 高齢者の自動車運転免許返納後の移動手段の状況や返納のきっかけ、地域による差異と要因などについて一定程度、定量および定性的な両側面から明らかにすることが出来た。また過年度の研究である兵庫県養父市や京都府京丹後市、群馬県の公共交通の取り組みについて、フォローアップを行い、最新の状況を確認した。		
今後の課題： 本年度の研究は、一定の成果を収められたと考える。今後もフォローアップ調査等、継続的に研究を進めていく。また成果については、早急に報告書として取りまとめる。		